

## 人にやさしいモノづくり

産業革命以降、機能を満たしたモノを大量に安価に提供できた者が勝ち残る時代が続きましたが、身の回りにモノが溢れ地球環境保全が課題となっている今日、人にやさしい、地球にやさしいという視点が物事の判断基準になって来ました。作り手側の都合より使い手側の気持ちが最優先される時代となり「人にやさしいモノづくり」の視点はぜひ身に付けて欲しいテーマです。

この「人にやさしい」という意味を理解する好書を見つけました。小松原明啓著「人にやさしいモノづくりの技術」～人間生活工学の考え方と方法～（丸善出版）です。筆者は、やさしさには人が使いやすい、安心安全など定量化しにくい要素に加え多面的な評価が必要で、人それぞれ受け止め方が異なり考慮する要素の交通整理が必要と語っています。例えば医薬品について「薬効については疾患に対する評価が必要である。しかし医薬品は患者に服用されなくてはならない。となると、服用しやすい剤形、服用するのに抵抗感のない色や味、ということも重要である。さらには取り違いが生じにくい包装外観、薬局での管理のしやすさなどの側面も求められる」と述べ、他者にやさしいかも評価されるとしています。

このように人にやさしいモノづくりには従来人間工学に加えて、社会の変化も踏まえた多様な知識、モノの見方を取り入れ、社会における生活者の視点で評価することが重要と語りかけます。また、私たちがモノをつくるのは便利で快適な生活を過ごしたいという「コト」の実現が目標でモノとコトは一体で考える必要があることを強調しています。

15章で構成され、どうすれば人がモノゴトにやさしさを感じるかというチェックポイントが各章図解入りで解説してあります。特に3章「人間を理解する」12章「楽しいコトづくり」14章「生活研究の方法」には新たな生活者の視点が紹介されており、読み終えると「人にやさしい」を考える基礎知識と次のステップへの手がかりを知ることが出来ます。

## 行動する可処分時間をつくる

先月末、北九州市内10大学の学長等と意見交換する「学びシティ！北九州」に参加し、本学も含め9名の学生から就職活動や今チャレンジしていることについて体験談を聞く機会がありました。発表者全員に共通していたのは、気になったことを解決したいと空き時間を見つけて行動し、その行動を楽しんで夢を実現していたことです。自信あふれるプレゼンテーションから、皆それぞれ成長したことが伝わってきました。人は忙しい中でも行動を起こすことで多くの体験を積み、大切なことは何かという価値観が形成されるのだと改めて感じました。

社会に出ると仕事や家庭の用事が増えるだけでなく、昨今は働き方改革の名のもとに副業が奨励されるなど可処分時間は減る傾向にあります。また、少子高齢化で70歳を超えても働く人が増えてきました。時間には所得のような格差は無く誰でも容赦なく減っていきます。また、時間は貯めることが出来ません。

ところで人には「時間が無い！」と感じると重要度は気にせず期限が迫っているタスクから先に処理しようとする単純緊急性効果があります。時間的余裕がないと重要なことを見落としたり諦めたりする危険があるのです。一方、仕事は忙しい人にさせるとうまくいくとも言われます。矛盾していますが、単純緊急性効果に左右されず忙しくても仕事出来る人は、大事なことは何かという判断基準を明確につかんで時間管理が出来るのです。若い時から興味や疑問を持ったことについて時間を創って行動し体験を積み自分の価値観を持っている人です。

最近、スケジュールが埋まってないと不安で空き時間をあまり重要でない用事で埋め、「忙しくて時間が無い」と自ら動かない人が増えている気がします。学生時代にスマホ時間の棚卸をして、どんどん動いて、短時間でも何かできるという感覚をつかむことが重要です。可処分時間を創って行動することが人生を豊かにすると教えてくれた9人の発表でした。